



写真のエキシージCUPとオメガ・カールトンが愛車の同店代表ティエリー・ヴァーヒェスト氏。

いち早く展示されていたヨーロッパSのラゲッジルームにはボディカラーと同色の専用スーツケースが。



オステンド郊外のロータス・ディーラーに立ち寄り。最新CIで統一された建物と広大な美しい敷地が印象的。



**4日目**  
頁の都合で少タルート  
を逆戻り。4  
日目立ち寄ったオ  
ステンドはブル  
ジュから30分程。

しかし、だからといってヨーロッパSで走るイギリスが楽しくないわけじゃない。夜の7時過ぎに到着したフランス・ハッチの裏の真暗なワインディングでは、シリーズ1やエリーゼ、エキシージの斬れ味にはさすがに及ばないものの、ロータスらしいヨ

ロップバSは、エリーゼやエキシージなどを選ぶ従来のユーザーとは違う層にアピールできるモデルです。個人的にはもっとフェイジーやM250みたいな、より過激で革新的なものが欲しいですが……」

すると、隣で聞いていた奥様が一言。「何言ってるの！ 新しいヨーロッパSだって十分ロータスらしいじゃない！ とても快適だし、すごく楽しいわよ」

そう、ロータスに憧れ、エリーゼを手にし、サーキットやワインディングを楽しんでいたユーザーもお年頃。そろそろ助手席側の意見が強くなってくるのは世界共通のようだ。ヨーロッパSは、そういった声にも十分対応できるということを彼らは2人仲良く話してくれた。

### ユーロトンネルと フランス・ハッチ

ベルギーからフランスのカレーまでは交通量も多くあまり飛ばせない。カレーで30分ほど休憩と手続きを終え、伴走車のエリーゼSとも別れると、いよいよドーバー海峡をくぐるユーロトンネルに入る。ここからはヨーロッパSだけだ。

行きのハウイチまでの行程ではあまりにも疲れていて分からなかったが、ユーロトンネルを抜けてそのまま繋がっている高速道路に乗った瞬間、イギリスの道が欧州に比べずつとμが低くコンディションが良くないの気がついた。確かにこの路面と連続するラウンドアバウトが、エリーゼのような、というよりいわゆるプリネーションライトウェイト・スポーツカーのあのサスペンションを産んだのはよく分かる。しかしヨーロッパSは違う。その名の通り、より速度幹の高い欧州をターゲットにしているのだ。

彼にヨーロッパSについて聞くと、「ヨーロッパはエリーゼやエキシージなどを選ぶ従来のユーザーとは違う層にアピールできるモデルです。個人的にはもっとフェイジーやM250みたいな、より過激で革新的なものが欲しいですが……」



### ヨーロッパでの ヨーロッパSの反響は？

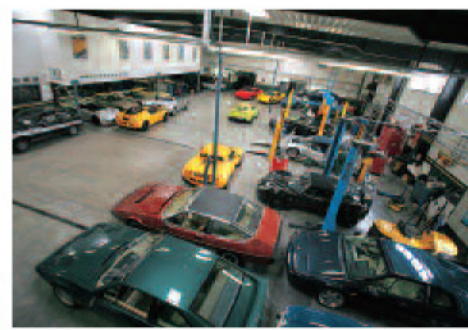
植物のLOTUSモニュメントとティエリー氏のコレクションが来訪者をお出迎え。奥にヨーロッパSが。



ティエリー氏は40歳。コレクターでもあり、F1のウイングから田宮のプラモデルまで収集する。



工場裏に並ぶカウルたち。ハンマーで叩いて頑丈さをPRしたり修復の練習用に寄付するのだとか。



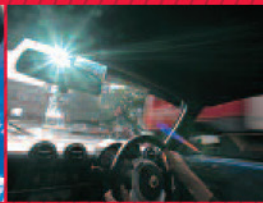
非常に広いワークスペースでは現行ロータスのほか、かつてのモデルもメンテを受けていた。



中央は奥様のナタリーさん。2人でこの大きな店を切り盛りする。右は同行したロータスの田代氏。



ロータスの  
No Lotus, No goodbyes Here!!  
バツゲン!!



10月4日(水)9時、  
ついにゴール!



ロータス正門前にて無事帰還したことを記念して撮影。やれやれこれで一安心……とはいかない。2日間で総演の8人連続インタビューがこれより開始されたのだ。

5日目

この日、10時よりロータスにてインタビューの予定が入っていたため、早朝よりロンドンから移動するが……。



トータル700マイルを突破!



ゴール地点、ロータス本社前でのトリップメーター。700マイル強、約1100kmを走破!

ロータスより  
ビッグプレゼント!

お土産として頂いたロータス・オフィシャルグッズを一部にプレゼント! 帽子X2、ネックストラップ、ミニカー(111s&119A)、サングラス、フレグランス、そしてウエッチがずっと来ていたジャンパーをそれぞれ1名に! 応募要項はP172を参照してください。



「ロップパSのハンドリング性能を垣間見ることができた。そしてロンドンへ向かってひた走る道の中で、ヨーロップパSと自分が次第に一体化していくかのような、シリーズと同じあの感覚がやってきた。オレンジの灯りと景色が延々と流れていく。遠くへどこまでも遠くへ」

ロンドンへの到着は10時を超えてしまっただが、不思議とそんなに時間が経ったようには思えなかった。

ヨーロップパSはシリーズ1の再来か?

ロンドンから1時間半走り、再びヨーロップパSとともにヘセルに到着したのは朝9時。実質3日強で700マイルを完全に一人走り抜いたことになる。それでも身体はどことも痛くない。疲れもほとんどない。そして走れば走るほどクルマと一体になっていく。シリーズと同じ志が、ヨーロップパSにもちゃんとあったのだ。

どんなに違うと言われようと、新しいヨーロップパSもやはりあのヨーロップパSシリーズの後を継ぐもの。それが700マイルを駆け抜け、8人のスタッフの声を聞いて、今回見えた結論である。

もしロータスを訪れるなら……



もしロータスへ行くことがあるならぜひ訪れたい場所を2カ所紹介しよう。1つは左の写真の「Bird in Hand」。ロータスのスタッフもたびたび訪れているパブで、クルマで5分程の距離にある。夜にはスタッフに

お酒を飲ませると何か秘密が聞けるかもしれない? オススメは典型的な英国料理ではなくハンバーガー。また下のホテルはクルマで30分程の距離にある三つ星のホテル「Park Farm Hotel」。静かで雰囲気のあるホテルで、フィットネスクラブやスパも併設。空港からもクルマで30分強。HP: <http://www.park-farm-hotel.co.uk>



“DANGAN” ツアーに興味ありますか?

強行軍だったものの、期待(?)のトラブルもなくツアーはスムーズに進んだ。ワインディングが盛り込まなかったのが心残りだが、こんなツアー、ティーボも協力してホントの“ツアー”にしたら……皆さん興味ありません? ご意見ご感想はj-ueda@neko.co.jp「DANGAN」係まで。